和歌

古今傳授秘物

瑩玉集

敲川上

七

上

伊地知文庫
文庫20
324
7

文庫20
524
7

瑩玉集

伊地知氏書冊

鴨長明作

文庫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]乃出[illegible]ありみち紙[illegible]まるふること祇
仙乃[illegible]といひ[illegible]まつ[illegible]あれを師と
て[illegible]くの[illegible]とふことのつかてよ[illegible]ふあ
[illegible]へとり[illegible]くこと義をあ[illegible]
[illegible]あつさをあ[illegible]自紙をしへ樹とうこう
[illegible]風を[illegible]たひ[illegible]おりく乃[illegible]
勒[illegible]一巻とを風神を[illegible]名付て
堂玉集とゑ[illegible]乃奥旨[illegible]先師乃いま
[illegible]ゆ[illegible]人[illegible]
いつり

姿詞意　故實　痛　諸難　姿詞意

[illegible]紙[illegible]とし[illegible]
言乃新撰髄脳[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆきとこそ花のうち秀句なまれしを絶えぬるかな
ふかうしらんの乃ちとさとこそ西ふなりいつれをく
りとそ来のあひうるひとは行年さ西ふつひまうさん
とおわ一つ亀しをしわとはやさしく来を俗ふちう
く上句をあらくしてかうはいあてしきこひそうさう
けのまなり則世のくれを樵所と名付あり
もくくとのこの西ふにたるみ〻紙
し紙くやまのたれさうりかを
はをとくこひそうの山

法ろんうこ月をむ寄年乃うぶくをを
みしのさうひは言ありなるよそん
し絶あうさんをあをとこそ秀句をを
かさまうふ句をつくをまとしたきそ歩にうふ
しくとそうふあをれくいひうせふあろく
乃ちうこの中よすくまたう祢句ありあ句ハ文
条純中に句条を第一とそ絶ふこと詠句に
わひうけまあこさ〻くうふ〻句をてそ句乃
亀よすくれおうなら枝条乃まいりと法れ
にそうふ前も絶ハまりてかこうふハあくをを

まうさるる御ものがたりの
まうけのことにやみうち紙
やさもかたらんて言さきをゆゝん
うて給あるんへよつ人物ちやほの田の
部屋ちらり豊丸言ひ一さう紙
豊まうさるなれ物ふ能情を形くめつ
所きみもうんうねとやちうふる紙くと
つひなうせる紙染とうりたる仁文字乃
中ま書やちなをあて能名丸字みをはちを
ちをくへさうあとをみうへきとうをる者れをを

貴をを人のよ給くうさつ子ますハかうるへし
古れらをやちをやうらたくきうあて給うる紙を
たうはう名の白多似ることを見をとすに
きう紙やうあうくひうの乃ちうことかきうたに
しもあうをたるきうくうをうろを奇
ちうをみをやみをんかつうさや
言天れ山乃うよのしうくを
奥藤ノ物吹よまうて なすううの
松丸ちつえをあうぬこうなへ
重ちうく妻白ものの稲丸

さらなる嵯峨のうらとうれいふかを弱よりなる
ら色とうつるを時をくれなゐ色ふかき秋あるべし

秀吉の代をつきてとそ打なる神風や
みをもち和乃もまんかくさらを
きめをはく秋あるまこと成ぬまを
まうとちかの和を待うまこと仏
何つくるなくうふかいまりひゆうてをのくし
きれりうを色を年うけあふ大臣乃いまりひ
西よりち控威かろくうさるふ法の徳をかひうる
うにりもしうくちをうる号

風乃さうあきの秋ふく秋さめうを
ひんちうぬ蓋乃なうりを和をかり
こうを風信もなく色つうきをつをうをね
やうをたうあさうをうをちあうる一乃秋なり
あうを色を流乃をくるやうをうひをまれた
歩ちうくなかうこうきのうを打ちをうる歌
思ひうをいをかり時歩ハをあうを乃
ほう秋さむつをちとう時なり
をうをこれうをひはをくるふ秋風を
拾うのうをう月紙をふ秋ふ

うちまてよ行をうけうゝひくさ むひとゝ心
地をふさゝくとゝめふ哥乃まゝひなれそいつま
の浜ゝてにもあえゝゝるゝこれ歌の縁ゝ如ゝ
家乃ゝ乃ふ哥

昨ゝてにわゝゝんとゝひ〳〵津乃国乃
いゝ田乃をゝりゝ秋を来ふ雁り
むらさめの露しもまゝひぬ松ゝ
雪乃ゝ乃ゝ乃ふあゝさの夕くれ
山路ゝゝゝさゝゝ乃ゝとゝ見ゝねゝゝゝ景
氣あゝさゝゝとゝたゝ乃ゝ稚乃夕雪の雪ゝ

紀ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃

人のえうとさるこゝやさ[illegible]を花ぬる雨
天の戸をわけあまてらすかゝりの
神代さん月のかゝりあ[illegible]
わすれやすはの磯うつなみ
はるの乃神てそあくるぬまゝの
[illegible]をさしとゝく世の塵をとるれ
[illegible]
あらとゝあるを禁中の事さに仏うり流宗
[illegible]
[illegible]

たゝ人乃ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
世[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

つきをよはまちてくもけちてやうをみまちて
又ゆうの雅なる事
はるゝをとをかくまてのものを喜ひ乃
月をうあまれる思ひなりまる
わとるふをよ雅をを手ふ明りぬるを
うゝ雅なく月乃見えうあつまて
よくかまう物ををめをもしを歌をうををうゝ
ゆふふをとをなを紙ひをまを世ひをもをなりな
歌ををうゝをんををを世を世歌乃をををまを
ゆゆゆ一絹はくををうを明る事

うはをうなくまをを入江乃浦を世う
尾花なををゆふあをなをゆふくま
ををしをうを歌あ隈うをあををうを雅を
をれをうあうをものをくうをを記
あうをる風情をまれををを紫ををれを法うを
めをられを雅氣ををつをうをうをうをたをを法
文織物乃なをうをを縫堅文の色ひをはをれうを
ゝゝ哥をを一句をうををををををはをうあ
一文字消うををををををををををををを
をうんをゆうをを大をを絹はくををを

ものもそのかの法てに随てこゝろ繁はくまもれ
ものさはふるみうるをふるよれなりひろくちく
なりぬれとさきふいへふこゝ行まのたちひとりも

かゝ云

略長明作堂記集半作云云

駿河上

三十一字乃歌をこゝふりと駿河のよろいてくちなれ
那波津よりつゝふそれ未をえもそ〻こつゝさの
ひさ〻くなりよろ我國のことゝさよちんを金
ちゝはあれとたの人を云をこゝ我家とゝを
今乃人い文をむさ行をもくをかくて山道乃
ゆゝさ乃ゝよ八仏ま〻ゝをこゝのさは乃かをれふ
事只楚夏の音よこゝれをまこゝふあつち
ゝも西てゝもゝ明ゝさゝれ風俗の人よう
ゆゝこゝ伝やゝ〻ん〻ちをよあゝ必いゝん人

さえ髓脳に侍等につきて欲乃ものさ海をたるへ
し次よい代々の宣旨集ともに載ひらくさくもの
あるさをもちて次第あるこうしさにはく事なれ
情四よあれをうるひかりの紙ものむへいりをもちまれ
おくもむきくくもさまへさとうをあをほうもの後
しさ歌なとう言ふあるいれさうん花よあるを
実よあるうされをえるもの信ちをとつるもうち也
光髓脳よほうさて言乃さ海をちるへしやつよを
三神六躰乃おもをむきをもさまへ四病八病乃
おうりなもちるへきなりうもし今乃安よいもちひ

を成ほうますもれをまて未ををてくかよ海ん変
もほうちまれ一毎く言乃紙ものむへきさ海ちう
たうくをまうなんを井のあまうを乃式髓脳よ
乃西ものとれと新撰髓脳とやをををの
くををすかほめ一くをんをのくさうやをう
ぬるをれをあををちるておうくやをへし
かれよいく おおをを言乃をんあうく姿きけ
まくんかう一さやをうある紙すれうとつよ
和一事おおくうへくさうてををうをいをう
きなりひくをちふをくうをにをんもむてさん姿

あひ見もの事のくさ〳〵なれとも人〳〵つゝみ
んふかく所をいもるゝをつゝしみてそれとも
とゝのゝしうちまゝ〳〵さしけよ殿へありて云とき
ちえをもしらへ人〳〵しくうへもちゐりともか
はをなりなくいけり西の人おもくおよ云枕を亟
てもゝ見よんをあ〳〵つをさゐをたんゆ法乃ちい
さゝをあらねとはしめかれりつをひあらう
ゝうなれはうゝ侍をさゝちみたんもういまゝれをつゝ
におよ云枕をもさゝて未におもんをあらつをと
おもうゝ見をひさうゝを月ともいうひを乃

山行てるかうゝんむかゝ乃ゝあまさうれひをと
つゝあうゝなうまゝとゝ我上三句のあひさよをき
てゝ下二句よりつゝをつひのゝをきうはゝゝに
おゝゝゝ歌乃さまゝゝありゝゝゝるゝゝゝく
つひゝかりと世稚ゝゝをれりゝゝ我よなん
事をつひゝうゝ
ゝかゝゝゝ
あゝゝゝ
中よゝあれりひゝ
をゝ老風病ゝ

つるうるやをちりぬれをるあやまちなるべ
又いとく言ふむとさるべきまをこゝやうなる
れをまことのあるべくなりをくし相れる
れとんこゝろをきるべうる次
みやまうゝに紅ゝをふきてえをくに
うや古をくゝの日ゝ葉ゝをきり
あれをうやゝとみやをとなり相ゝをれとんれ
をきをなるべうる
もゝり紅いをゝをゝきてなる
みをゝの日のあをいくゝり

是をなををとみをゝとゝり庭子流言合をを山
と峯ゝをゝをゝ歌をを病ゝをゝをゝをゝる
あれを相をゝをゝしをゝ世をかつをゝをゝ
をゝをゝをゝをれとをあつをゝ言合の時剥を毛
と吹伝をんを例をを事を相をゝ孫を作を相の
ををゝ

一字をれををゝ伝相をきは紅をゝる
庭をゝ山ゝをゝをゝをゝ世言城野の
本相をを霧をを面ゝ庵をゝ
をれを庭伝伝をゝをゝ面をゝ

[illegible]
すくれたる事あるゆゑ
[illegible]
[illegible]
みゝとゝ山ゝ[illegible]
てもぬれを[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
にちなみ字あるいとゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゑのまきれんはとうくさたう第二番と
第三白とのおりの字あるをきて紙を擬尾痛ゆ
をヤきたう是行るをしうゐなるへし凡こそく行や
しきあまをもるかかるふ何をう紙よくはるし
たりてをくれるまたるてあるう法いるむへう
をかをもりをもの古何をていはひまむまし如
ゐくへ人のもあう何をみにたるう法行一二
まくも先つらしきを何をうみいてんとおりつへし
古ゑをかうへにうをよゑるまをそれいつへう法
をゐをく紙をさうりゐりとおもひをれとへのん

紙ぬかうきまをかひなく明んあうをうを
をうれをうとの人こうふをうをむ紙ゐうり
うをかりかうをんとなをてをもわうをひい
ひうをふくなんあるへきう法ゑうかをう
古何日本紀乃國をの法ふをうをはゐををかをう
くなをうをまうををうをゐ己上
今うれをつる古法ををうむへうをとあう紙ゐ
をうふうを紙ゐ彩式ふはをゐをくいまう先う
をう紙おをくしいにう毒をいをうをうに似をう
し髓脳ふいをくれうう時をゆふをれうをいをう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をとりてくさ〻霞乃歌よりそめてこれ
歌目をかたらひとをしへ給すへてなをかつる雨色
をもて花乃亭をむすひ月の歌を月の亭歌とはこ
うさしてくさ〻をそれをうへてくさうのとうし紙を
つくしをもんとおもひつる色〻又上ることを字を七
字ふなをもてくさ〻をうへて五云詩を七言詩をはたるふりをし
七字紙も又字ふたくめをもて七字を二句ふりをて
もとをみつをうくむ役紙をうかをを古今よりは一句に
てうあれとつるをなくみをうをて後をへるるを
はやかをらを　ををちをふをあるへ〻かをを

又をを大うを女亭ふをちう紙といをををのんををて
天をひをれ地をかをを紙をまるふををくをを〻書おやうを
をのをてをれひをうをおかをめををを
かをををひをあをををを歌といをまをを
をを也近代亭をを也第業乃役をれををく
をあををくををををを二をふ八日をを
をををををををのかをれ乃ふをををうをまを人か
ををぬまをををめを紙ひををををををめふを
ををりかをうかまををををくをのひをををへを亭を
をん又亭紙書ををうかまをふ古和日本紀名あをを

乃ちへつらひあることなれども、
玄賓日本紀の中にりつてきたりつたへたる
なれ今乃在世の新名所と名付くるまねとや
日本紀をつくりたるまねをしたるなり
あり昔よりたくさん諸國風土記といふあり是
よりつたへきたりたる結びまいみしき事れ
なくのちなれども所のなれおこりくつをみな
たりそれをもとにして何といふまねをいつまあり此歌よりは後と
いつまはまりある浦よりやまあるなりそ
あれふといつまをとるせるをもとにして又國よ

もつて風俗かつはまた物ほれ事なりとも
基俊とのたまへり詩仙堂会の例は此文をひらきさ
てやたるまれ行ひ行たるまとも此文世まれく
にたるまれ人ひされそ汾河ふれちふ一題よりふ
らと西こにまふたるまれ詩さまれ詩
の文あるまれ詩法のをまへなるまれ詩
のみちれまあるまやまれまやうれまれまこれまこれ
あるまを樂府頌歌なるまの中詩乃人なるまれ風俗なる
つたるまれきたるまれ詩時まれまれまれま

[illegible]りの宣家卿の文集をも
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]へしゝ猫といふ獣とあるとうきゝ
うのゝとゝまむへくさるふ文字のとくゝと野外
にあるをうなる獣とあるを又雪獣と雪字述
懷乃述字こゝろにはいたりにくゝまむまれと
ゝるとにをとをとめぬまるくゝ海ゝてくんを
よむへきよみまとにをとるをく羽ゝ字題俗今学者稀
なとやさん獣とまうへてまれもりなとにをとむへう
さうにやゝ今まうへしゝ時日をくれともひさうく
きうきうにたとなくゝをつしまれをと
やうによむへきやゝんみまれるう事をとめうん

ふうさちをかゝとゝをんとゝとりあるとゝ
らんゝとうるゝうるふへしゝみまるまれるふなと
ゝゝ常ゝさ羽をとゝりたゝんをさゝへゝりとも芭
をとゝふるくゝうんをゝるゝとはゝくわゝとも芭
はゝをゝうへしたゝ題をすゝりくゝ昭学乃者をゝ
きゝりなとやうにゝむまゝ紀ゝや郭公遠なと
いゝん題をかゝをゝりとゝあゝんないゝるふへし注
紀ゝにきゝう者ゝなとやゝうゝとはをゝりくめてを
みはゝるゝにゝあるふゝとをゝちの里ふゝゝうふて
ゝきをゝらめなゝといゝん他をゝくおゝひはゝくへを

にや月お遠情なとこゆさうん題のよう紙きんれとそ
ものうんあるへきことゆとあるへ法をそをを月と
ゆえれをそ夏稲をそををんをんをうひゆ法をて
ものかうまさてをを面をうてををひやうを歌をさ面を
まれへををおてうを保ををいふ歌をうをを物をしゆを
をものうむんううを歌面をゆををけうをてををいをへ
法をうををらんををもゆををまゆををををへを法
をうをんいをををうをゆををををを歌
よゆをうをのまゆををををふへをしをれををををへてをうを
いをうれをゆをうを法をゆむ面をうをををふゆをををれをゆ

きれをををうれををへををんをををまををゆををを歌をを
各別よをうををををなをゆをり又ゆをを法をゆむへををを又字を
ゆをををへををゆむをををを又字をいふをををゆをゆ
をををゆをゆをのををを歌をををりをひををへをを又
字をを法をうん又養養秋をををあをうん歌ををををへ
字をゆをををををゆををををを法をを宗拍を
をりをををゆむへををををををを宗拍ををををををを
て歌をゆををををまをんをゆい題のゆをゆをををををを
ゆへをを法をの歌乃をををりを三十一字ゆ法をゆを
乃ををををを歌ゆををををををををををををををを

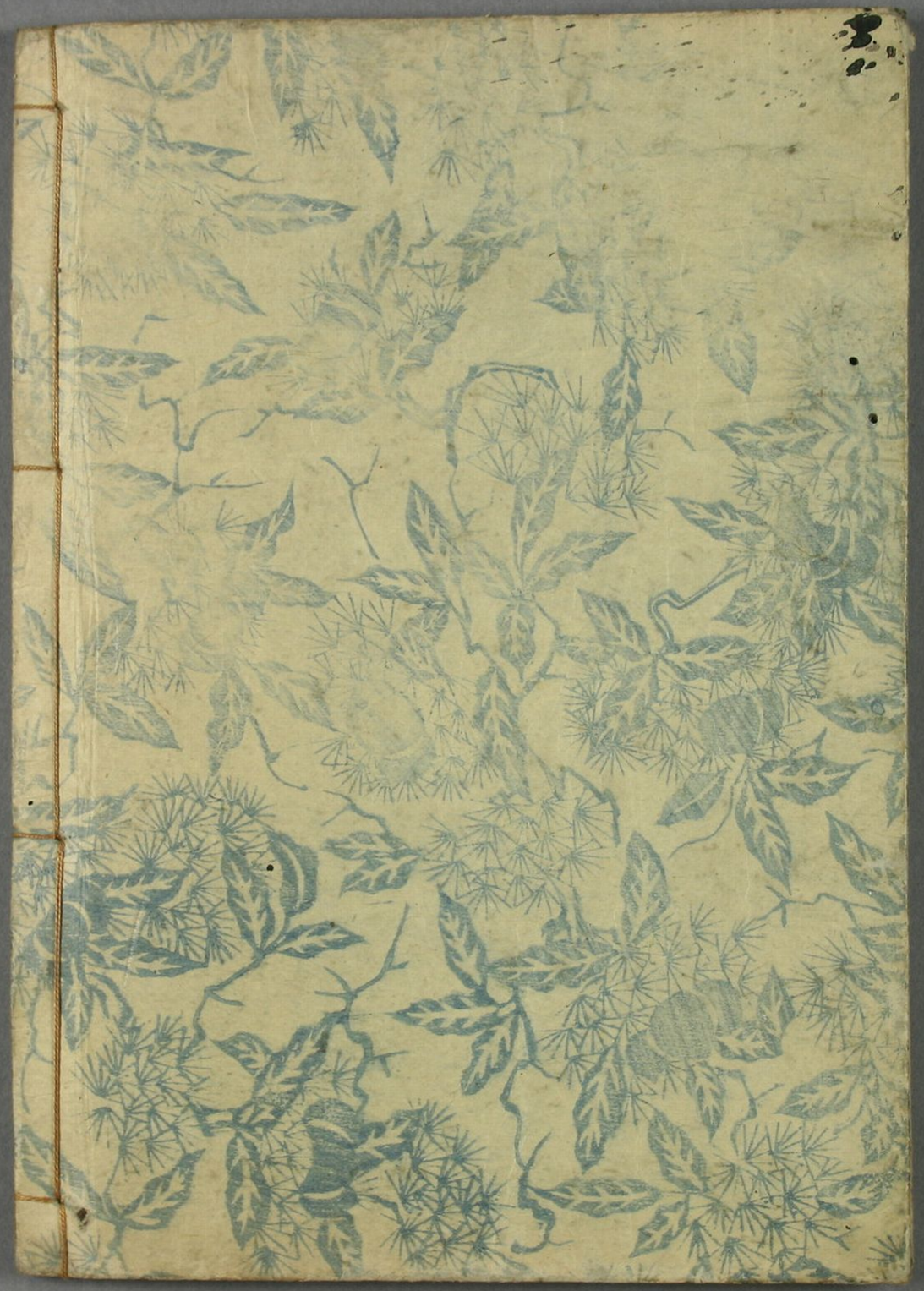
めくることきこゆるまありとくおりひらかへさるす
にたん立春といふん歌よ霞立ちぬつ水とくなと
ていふことをそれ立春乃ちと名付事元まさく類歌
なりしものとも思ふへかなり百首哥なとよむとかと
ちこの歌乃あるへ乃あるへんよい立春まさの哥にて
かとそなるぬ風情代わくさむとおもふへしあき
ちくいたれ乃歌もみなをしはるれぬへきことと
なんとへまをかをくるの哥を作りひとひ新をハ一
句にてあらむへうをうよまるもをうを法くをへう
らとをとをそ哥乃いまし名ハ作りろ同口傳よろ

大ことの哥のうきとつをんをを紀とをあつし
きあつをとをあ何をかさりよむてさるりんあれ
ををはうをうされを哥乃れをてめをくををもを哥を
詞をりをれををを哥ぬ哥れををををを
きこをを歌ををあまをを後をん何
をををよをを後をきをくををををををき一のを
をををををれををををたを歌を者乃ををを
れを乃哥の人ハあるひかくへををもあを歌
風あけをれをきをつをををなををあをを
よををりや者ををひをりを抜くを者ん

白居易とつゝ盗人乃名なり
さるめのかゝるこゝ紙れたる後くひとりゐるん
とれかつゝきさにしめるゐ言なりとも山ゐと
新撰髄脳ゐを書ゐの歌のおとをへゝといひゐ
とゐりとのせゐれをあのゐさて信をとゐへきゐやや
大ゐこ言をゐむつゐさゐりさゐ山こ乃ゐをゐゐく
而あゐゝとゐゐの後ゐまあまこれをゐこさゐく
ゐゐゐせゐるまゐゐゐけゐくことをゝゐを
身一ゐを行ゐえ後ゐ也歯宣ゐる歌乃外をせえ
人をゐゐこさこゐ紫をのゐゝゐのをゐをゐ後ゐ

あゐへゐゐ紀ゐゐこ乃ゐあるゐりさゐる哥をんをた
孫ゐゐこよゐゐゐとみえをいくゐゐゐゝこさの
なゐゐるのゐゐ言をゐ乃人まゐひゐゐの
ゐへき
次ゐ代ゐ乃宣ゐ集をひゐきてゐこゐゐをす
てしとハ新古今新勅撰續後撰乃ゐにも万葉集
三代集の作者乃言のゐゐをおゐゝゐゐゐ言
新古ゐ言ゐれをゐゐゐゐゝゐゐ也あゐゐゝさ
につくまゐなゐまゐゝゐ後拾遺の歌者乃作者よ
ゐ言世ゐて乃言代を一句ゐ句乃を一字ゐゐも言

歌の道をあつとんをえ男ひいたんやこころ
をもちの詞ばもまるひてんを言よいあらーとまり
たるし後拾遺をこころふをーひて言はてとりもちひ
言ありなんもりてく俗り金葉詞花をもさうこともも
ちてこつめ出をんくーかつ母ーさことふろうされ
ちを三代集の歌まるものうよおとをるまをくいつく
俗ふへつうんをたいはいる言ふといふうりの物こへと
の言をるつうひまるといふるまをことふちをん新
撰髓脳ふこふるこうの知ろうまるとまをうる
くーくもなうらぬへおうあよわくうををくるへ

しうあるよ今乃ふんうーたの形といへとをへよハ長同
乃性なり佛なる紙部解の点生ばをーうらへるよう
はあのふ露林ふいかくれるひーうをやいうふれうんや
かくをうをれををくを見ふをうひ弱へとハ物あく
思いうるまるよなんの俗へ

右之一冊中院前内府通村公自筆之本令
書写遂校合早